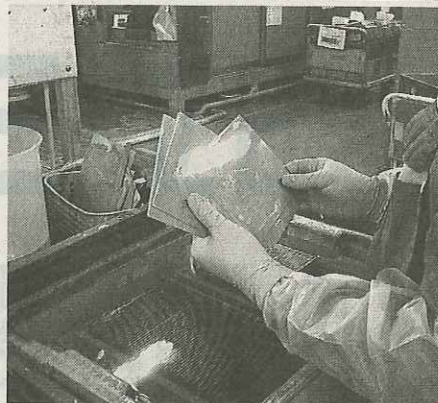


シリコン部材や評価装置 増産

「太陽電池」中小が投資拡大

太陽電池関連の中小メーカーが設備投資を拡大している。TKX（大阪市、岸本智社長）は18億円を投じてシリコン製部材の生産能力を2割増強。英弘精機（東京・渋谷、長谷川寿一社長）は性能評価装置の増産に数億円を投じた。世界で急成長する太陽電池の需要に対応。独自技術を盛り込んだ製品の供給力を高め、国内外の電池メーカーに売り込む。



薄く切り出したシリコン（滋賀県長浜市のTKXの工場）

急成長市場に狙い

TKXが増産するのは太陽電池の発電機能を担う部材。1辺が約40センチの直方体のシリコンから、厚さ0.2ミリ程度のシートを切り出し、発電効率を高める特殊な表面処理を施す。主力の長浜工場（滋賀県長浜市）の製造設備を10月をメドに増強。生産要員も2割増やし、他の2工場を含めた生産能力を月1800万枚に引き上げる。すでに推定3割強のシェアを握る国内に加え、急拡大する海外需要も取り込み、まずは2010年12月期の売上高を約300億円と前期比4割増やす計画だ。大阪富士工業（兵庫県尼崎市、大島時彦社長）

もシリコンの加工設備を増強する。10億〜20億円を投じ、本社工場などに加工時間を短縮できる新型装置や洗浄・検査工程

大手の需要、中小に波及

海外からの引き合いも

太陽電池大手の積極的な増産投資に伴う需要が中小企業に波及してきた。シャープや京セラ、三洋電機など国内大手が相次ぎ工場の増強に動き、海外勢も韓国LG電子やサムスン電子が大型投資を計画。品質向上やコスト削減など、国内大手の厳しい要求にこたえてきた中小には海外メーカ

の自動化装置を導入。月産能力を来年3月までに6割増の800万枚に引き上げる。中村超硬（堺市、井上誠社長）は約30億円で大阪府和泉市に新工場を建設した。ダイヤモンド粒子を先につけて切れ味を高めたワイヤソーと呼ぶ刃物を使い、シリコンの塊を切断。ピアン線を使用従来方法に比べ加工時

間を最大3分の1に短縮して生産性を高める。月50万枚の規模で出荷を始め、年内に同300万枚に引き上げる。英弘精機は太陽電池の性能を評価するのに使う「日射計」の生産能力を月産200台に倍増。組立立てて要員の増員も検討する。同社の日射計はセンサー部分などの工夫により、波長が1700ナ

（ナは10億分の1）の光にも売り出す。千葉市にある主力工場の生産ラインへの追加投資も検討する。利昌工業（大阪市、利倉一社長）は滋賀県の工場設備の増強に約2億円を投じた。太陽光パネルで発電した電気を直流から家庭で使う交流に変換する部品の月産能力を2万5000個に6割引き上げた。

ただ販路が海外に広がっていきなかつた。今後は中国や台湾などの中小との競争が激しくなるのは必ずしも、ブームに踊らせずコストや品質に磨きをかけ続ける姿勢が欠かせない。



ーからの引き合いも多装置を即納してほしいとの要請が強い」（材料加

実際、台湾や韓国勢の取引打診が今春から目立って増えた」（太陽電池材料の受託加工）、「中国企業から